

2018年10月23日



各 位

会 社 名 高砂熱学工業株式会社
(コード番号 1969 東証第1部)
代 表 者 役職名 代表取締役会長兼社長
氏 名 大内 厚
問合せ先責任者 役職名 取締役常務執行役員
コーポレート本部長
氏 名 原 芳幸
TEL (03) 6369-8215

東京国際空港国際線ターミナルビルにおける 空調設備用配管の耐震支持施工について

当社が10月22日付で公表した「本日の一部報道について」につきまして、下記の通りご説明申し上げます。本件は、他の当社施工物件の安全性に影響を与えるものではありませんが、本件の反省を踏まえ、当社は引き続き技術員の指導・教育の再徹底、品質管理体制のより一層の充実を図ってまいります。

記

1. 本件の経緯

本年6月、一部雑誌に、当社が空調設備工事を請け負いました「東京国際空港国際線ターミナルビルの天井内空調設備用配管の耐震支持の間隔が建築設備耐震設計・施工指針※（以下、「指針」といいます。）を満たしていない」旨の記事が掲載されました。この件に関し、当社は、関係各所と連携のうえ、速やかに指摘対象である当該ターミナルビルの耐震支持状況の現地調査を実施いたしました。その結果、空調設備用配管の耐震支持の一部に指針に適合していない箇所が確認されたため、直ちに補強措置を講じ、6月21日までに完了いたしました。

※一般財団法人日本建築センターが策定するガイドライン

2. 現地調査結果・発生原因・対応

上記現地調査の結果、耐震支持が指針を基に算出した箇所に設置されていないケースが61箇所ございました。これらには、耐震支持を設置する際、当社技術員の判断で設置位置等を変更したものなどが含まれており、また、これらの施工状況に関して元請会社等関係者への説明が十分なされておりました。なお、上記のとおり、この61箇所について指針に適合するようにするための補強措置は既に完了しております。

3. 主な対策

本件を受け、当社は6月以降、日々の施工管理強化と変更点等の関係者への十分な説明を徹底するよう全技術員に対し再教育を実施いたしました。

4. 業績への影響

当該補強措置に伴う当社業績への影響は軽微であります。今後、重大な影響を及ぼすことが明らかになった場合には、速やかに公表いたします。

以上